

ひな祭り喫茶

デイサービス

古代中国では3月の最初の「巳（み）」の日に水で体を清め、宴会を催し厄を祓うというお祭りがありました。その「上巳の節句」

が日本に伝わり、日本古来からあった人形に厄を移す風習などと混ざり合い、平安時代になると人形をなでて厄を移し、供え物を備えて水に流すといった祭りが行われるようになってゆきました。またそのころ、上流階級の女の子の間で「ひいな遊び」と

いって、紙で作った人形と身の回りの品に似せて作ったおもちゃの家財道具を使ったままごと遊びが行われていたようです。江戸時代になって、宮中行事としてひな祭りが取り入れられ、そのうちひいなあそびなどが庶民に親しまれ、女の子の初節句を人形を奉ってお祝いするようになりました。これがひな祭りのもとになったそうです。



ゆうあいデイサービスでも、利用者と職員で作ったおひな様をテーブルに飾り3月3日～3月9日まで、ひな祭り喫茶を行いました。たこ焼き・桜餅・甘酒セット・抹茶セットなどの中から好きな物を注文して頂きました。顔をピンクにほてらせ笑顔で話し

をされる皆さんを見られて幸せな気持ちになりました。(加川 育男)



リフレッシュデイが変わります！

リフレッシュ デイサービス

平成12年(2000年)4月の介護保険導入と同時期に開催されて、6年が経つリフレッシュデイサービス(大竹市IADL訓練事業)ですが、介護保険制度の一部改正に伴い、4月以降より、**虚弱高齢者の方(要支援・要介護状態になる可能性の高い方)**が参加される**特定高齢者デイサービス**(玖波、大竹、栗谷、阿多田の4ヵ所で開催)と、**虚弱高齢者に該当しない方が参加される一般高齢者デイサービス**(各地域による参加者のみによる自主開催)に分かれることとなりました。



「今まで、楽しく元気でこられたのもリフレッシュがあったおかげ。ゆうあいから職員がなくなるのは寂しい。でも、自分達で今までやってきたことを思い出しながら活動を続けていきたい」との声が、どの地域の利用者からも聞け、寂しさもありますが新たな形に向けての意気込みも見られました。

4月以降、ゆうあいとしては特定高齢者デイサービスにおいて、玖波・阿多田での開催の事業を行い、一般高齢者デイサービスにおいては、地域の自主開催の講師(費用については開催地区の負担)として支援する事となりました。

今後も、新たな形にはなりますが、高齢者一人一人が元気でその人らしい生きがいある生活を送れるように支援していきたいと思っておりますので、宜しくお願いします。(甲野 雄司)

